題西林壁　西林の壁に題す

元豊七年四十九歳（一〇八四年）

横看成嶺側成峰　横に看れば嶺（れい）を成し　側には峰（みね）を成す
遠近高低無一同　遠近　高低　一（いつ）も同じきは無し
不識廬山眞面目　廬山の　真面目を識らざるは
只緣身在此山中　只だ身の此の山中に在るに縁る

視点によって物の本質は、さまざまな形をとるのだという。表面的に見れば。当たり前の理屈を述べているにすぎないとも言えるが。味読するうちに何やら禅の悟りの契機らしきものが示されているのが感じられる。蘇東坡一〇〇選石川忠久より抄出

題西林壁　蘇軾
tí xī lín bì　sū shì
橫看成嶺側成峰　héng kàn chéng lǐng cè chéng fēng
遠近高低無一同　yuǎn jìn gāo dī wú yì tóng
不識廬山眞面目　bù shí lú shān zhēn miàn mù
只緣身在此山中　zhǐ yuán shēn zài cǐ shān zhōng